

公益社団法人 日本水産学会  
令和元年度第7回理事会議事録

1 開催された日時 令和2年2月8日(土)12時56分～16時19分  
(休憩 15時12分～15時23分)

2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス  
2号館200A-1及び2(東京都港区港南4-5-7)

3 理事総数及び定足数

総数 19名, 定足数 10名

4 出席理事総数 16名

(上記2の会場での出席)

黒倉 寿, 小梶 聡, 越塩俊介, 佐藤秀一, 高野みゆき(旧姓:馬久地), 東海 正, 中田英昭, 萩原篤志, 日向野純也, 舞田正志, 安井 肇,  
横山芳博, 吉崎悟朗, 和田時夫

(途中出席) 岡崎恵美子(決議事項 第10号議案「令和元年度日本水産学会論文賞の決定」の審議中 14時49分に着席)

(Web会議システムによる出席)

家戸敬太郎

5 出席監事

(上記の2の会場での出席) 北田修一, 杉田治男

6 出席幹事

(上記の2の会報での出席) 坂本 崇, 遠藤雅人, 二羽恭介, 福島英登, 矢澤良輔,  
甘糟和男

7 議 案

決議事項

第1号議案 「会員に関する規則の一部改正の提案」の件

第2号議案 「令和2・3年度役員(理事及び監事)候補者の決定」の件

第3号議案 「令和2年度定時社員総会の日時及び場所ならびに目的である事項」の件

第4号議案 「令和2年度事業計画」の件

第5号議案 「令和2年度資金調達及び設備投資の見込み」の件

第6号議案 「令和2年度予算」の件

第7号議案 「著者負担金回収不能金の雑費処理」の件

第8号議案 「未処理の仮受金」の件

第9号議案 「沿岸環境関連学会連絡協議会への参加に伴う経費支出」の件

第10号議案 「令和元年度日本水産学会論文賞の決定」の件

第11号議案 「企画広報委員会運営規程の一部改正」の件

第12号議案 「令和2・3年度支部長」の件

第13号議案 「令和2年度秋季大会運営委託業者」の件

第14号議案 「令和2年度秋季大会募金目論見書」の件

第15号議案 「令和3年度春季大会委員長」の件

- 第 16 号議案 「令和 2 年度各種委員会委員長選出」の件  
第 17 号議案 「令和 2 年度各種委員会委員選出」の件  
第 18 号議案 「令和元年度資格喪失者」の件  
第 19 号議案 「共催，協賛，後援の取り扱いの申し合わせ」の件

- 報告事項 ① 第 6 回理事会以降の職務執行の状況  
② その他確認事項

## 8 議事の経過及びその結果

### (1) 定足数の確認等

佐藤会長が，定足数の充足を確認するとともに，Web 会議用装置からなる Web 会議システムにより，出席者の音声，映像が即時に他の出席者に伝わり，出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて本会議の議事進行について説明があった。

### (2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき，佐藤会長が議長となり，本会議の成立及び Web 会議システムを用いて開催する旨宣言し，議案の審議に移った。

(決議事項)

#### 第 1 号議案 「会員に関する規則の一部改正の提案」の件（別紙 1）

吉崎総務担当理事から，会員に関する規則の一部改正の提案について原案の説明があった。審議の結果，令和 2 年度定時社員総会に別紙のとおり提案することを出席理事全員一致で可決した。

#### 第 2 号議案 「令和 2・3 年度役員（理事及び監事）候補者の決定」の件（別紙 2）

吉崎総務担当理事から，候補者および次点者などについて説明があった。特に役員選出規程第 2 条 1 項にかかる監事候補者の推薦では，理事を含まない関東支部幹事有志から税理士の資格を有する野澤知世氏（ところ会計事務所）が推薦されたこと，また同規程第 10 条 3 項に従って東北支部担当理事候補者の 2 位に平井俊朗会員を追加したことの説明があった。本議案について以下の質疑応答があった。

萩原理事 「本議案と直接関係ないが，どうして支部幹事という名称が使用されているのか。」

東海理事 「従前，支部評議員と呼ばれていたが，法人化した際に社団法人には評議員会をおく必要はないということであったため，支部評議員という言葉が支部幹事と変更した経緯がある。」

審議の結果，令和 2 年度定時社員総会に別紙のとおり提案することを出席理事全員一致で可決した。

#### 第 3 号議案 「令和 2 年度定時社員総会の日時及び場所ならびに目的である事項」の件

吉崎総務担当理事から，令和 2 年度定時社員総会の日時及び場所ならびに目的である事項について原案の説明があった。審議の結果，出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

開催日時：令和 2 年 3 月 28 日 13 時 00 分～15 時 20 分

開催場所：東京海洋大学品川キャンパス

目的である事項

- ・令和元年度事業報告ならびに貸借対照表，正味財産増減計算書及び財産目録承認の件
- ・会員に関する規則の一部改正の件
- ・令和 2・3 年度役員（理事及び監事）選任の件

第 4 号議案 「令和 2 年度事業計画」の件（別紙 3）

吉崎総務理事から，令和 2 年度事業計画について原案の説明があった。本議案について以下の質疑応答があった。

吉崎理事 「1. 役員会・組織運営等に関する事項（4）委員会で編集委員会のみ「定期的に」という文言が使われているが，他の委員会では用いられていない。どういう意味があるのか。」

日向野理事 「委員会の運営規程に記載があり，それに基づいている。」

東海理事 「編集委員会の場合は，論文賞の審査や大会中の開催等，ほぼ確定した時期に委員会が開催されていることからこの文言が使用されている。」

吉崎理事 「2. 研究発表会及び学術講演会等の開催による水産学研究の推進事業（3）各委員会が行う研究発表会及び講演会 g）国際交流委員会の中で「講演会の開催（令和 2 年 3 月予定，於東京海洋大学品川キャンパス）」とあるが，単独で企画されるということか。」

萩原理事 「令和 2 年度春季大会における SDGs セッションの中で招待講演を企画している。」

萩原理事 「3. 関連学会等との連携及び協力ならびに社会連携の推進事業（1）関連学会等との連携及び協力で，協賛もしくは後援の記載が抜けている。」

吉崎理事 「早急に確認を行って修正加筆する。」

越塩理事 「3. 関連学会等との連携及び協力ならびに社会連携の推進事業に（8）ベルソープックス刊行への協力とあるが，出版委員会ではベルソープックス担当委員を設置しないことになっているが，協力はどのような形で行うのか。」

吉崎理事 「企画等の相談を受けた場合には対応するという文言があったが，現在でも有効か。」

東海理事 「ベルソープックスの契約は継続している。」

越塩理事 「出版委員会でベルソープックスへの協力内容と契約書について確認する。」

東海理事 「令和元年度の秋季大会ではポスターコンペティション（学生および若手）で表彰を行ったが，今後も予定があれば事業計画に若手等の学術発表への表彰について加えておいたほうがよいのではないか。」

安井理事 「令和 2 年度の秋季大会でも検討している。」

東海理事 「令和2年度春季大会は若手等の学術発表への表彰を実施するのか。」

舞田理事 「実施する予定であるが、現在、表彰については試行という形で実施しているので事業計画には載せていない。」

東海理事 「理解した。」

審議の結果、原案を一部修正のうえ、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案 「令和2年度資金調達及び設備投資の見込み」の件（別紙4）

東海財務担当理事から、令和2年度の資金調達及び設備投資について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第6号議案 「令和2年度予算」の件（別紙5）

東海財務担当理事から、原案の説明があった。本議案について以下の質疑応答があった。

北田監事 「平成30年度決算と令和元年度決算予想を比較すると、経常収益が大きく減っているのに対し、経常費用はそれほど変わらない。Fisheries Scienceの契約変更に関わると思うが、これはどのように考えればいいのか。」

東海理事 「平成30年度からFisheries Scienceの契約を変更している。ロイヤリティー収入は1年遅れて入るので平成30年度には旧契約に基づいたロイヤリティー収入があり、大きな額となっている。」

萩原理事 「ロイヤリティー収入は為替相場の影響等で大きく変動し、リスクとなるので新しい契約を行い、収支の変動を抑える対策を行った。」

佐藤会長 「過渡期にあるので収支に差があるが、最終的に収支は大きく変わらなくなる。」

北田監事 「平成30年度に比べ、令和元年度の収支規模が大幅に縮小している構造がわかりにくい。」

東海理事 「平成30年度の決算時にも収支に大きな差があることについて説明を行っている。」

佐藤会長 「次の総会時にはわかりやすい資料を作成していただく。健全会計で進めている。」

東海理事 「令和元年度の決算では黒字になると予想しており、その額は問題ない範囲である。」

中田理事 「沿岸環境関連学会連絡協議会の関連経費は今後の議論次第で再度計上されるのか。」

東海理事 「今後の議論にもよるが、理事会で承認が得られた場合に予算措置すれば問題なく運営できるものと考えている。」

審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第7号議案 「著者負担金回収不能金の雑費処理」の件

東海財務担当理事から、Fisheries Science掲載論文78巻および79巻の著者負担金未納分の回収が見込めないため、雑費として処理する提案があった。また、それ以前のものについても回収不能として雑費処理を行うことが過去の理事会で承認されていることが紹介された。本議案について以下の質疑応答があった。

横山理事 「7年前のものを処理するという根拠はどこにあるのか。」

- 東海理事 「所監事からは3年以上経過したものに関しては雑費処理が望ましいとの意見が出されているが、80巻以降のものに関しては回収の見込みのあるものがまだあるので、今回は79巻以前を対象とした。」
- 横山理事 「5,6年前のものに関して著者負担金が支払われた例はあるのか。」
- 東海理事 「今回の雑費処理を考えている分に関してはすべて海外の著者であるが、6年前以降のものには日本人著者も含まれており、催促に応じる可能性がある。」
- 黒倉理事 「会計処理上は致し方ないが、何らかのペナルティーを考えるべきではないか。」
- 東海理事 「著者負担金を支払わなかった者に関しては今後一切の投稿に応じないことになっている。こうした者のリストは作成してある。」
- 舞田理事 「著者負担金を支払わなかった者が後に投稿してきた場合には当該論文の支払いを要求することができる。」
- 萩原理事 「Corresponding author だけに適応されるのか。」
- 東海理事 「会費を払っていない会員が共著者に入っていると投稿を受け付けないルールもなっており、著者負担金が支払われていない掲載論文の共著者も同様に投稿を受け付けないことになっている。」
- 北田監事 「会計上の処理は理解できるが、何か防止策はないか」
- 東海理事 「投稿時に掲載料の支払いを確約させる項目がある。また、受理後の印刷前に支払いを確約していない場合には印刷に回さない方法を取っている。海外の著者には事前にクレジットカード情報を要求しており問題が発生しにくい、銀行振り込みを希望する著者もいることから完全な対策とはなっていない。」
- 北田監事 「Springer 社と著者とのライセンスに契約時に支払いの確約を盛り込むことはできないか。」
- 東海理事 「本学会との掲載料の支払いについてはそのような確約を必要とはしていない。今後、銀行振り込みを廃止して、クレジットカード決済のみで処理をする方法もひとつの解決策になると思われ、銀行振り込みの場合でも振込みを確認してから、印刷作業に入るという方法も考えられる。」

#### 第8号議案 「未処理の仮受金」の件

東海財務担当理事から、未処理の仮受金について説明がなされ、雑収入として令和元年度決算で処理することが提案された。審議の結果、出席理事全員一致で可決した。

#### 第9号議案 「沿岸環境関連学会連絡協議会への参加に伴う経費支出」の件

吉崎総務担当理事及び萩原水圏環境担当理事から、沿岸環境関連学会連絡学協会ジョイントシンポジウムに関する経費支出について、これまでの経緯や前回理事会以降の水産環境保全委員会との議論も含め説明があった。東海財務担当理事から、本年度については前回理事会で承認した本シンポジウムに対する負担金なしの後援を取り下げて、改めて負担金ありの後援として審議することが提案された。また、次年度については日本水産学会の主催、共催を明確にし

た提案を理事会にて諮っていくことで、経費の支出について審議することの提案があった。本議案について以下の質疑応答があった。

黒倉理事 「沿岸環境関連学会連絡協議会との関係性が問題である。委員会ではなく、本学会が沿岸環境関連学会連絡協議会に参加する必要がある。」

萩原理事 「現在は水産環境保全委員会が参画していると理解している。この点、確認していく必要がある。」

佐藤会長 「本件の決議内容については、担当理事から水産環境保全委員会にしっかりと伝えてほしい。」

審議の結果、本シンポジウムへの本学会の協力の位置づけを負担金ありの後援とすることを出席理事全員一致で承認した。

第 10 号議案 「令和元年度日本水産学会論文賞の決定」の件（別紙 6）

東海編集担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第 11 号議案 「企画広報委員会運営規程の一部改正」の件（別紙 7）

吉崎総務担当理事から、企画広報委員会運営規程の一部改正について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第 12 号議案 「令和 2・3 年度支部長」の件

吉崎総務担当理事から、令和 2・3 年度支部長候補者について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

北海道支部	木村暢夫
東北支部	落合芳博
関東支部	小島隆人
中部支部	平塚聖一
近畿支部	澤山茂樹
中国・四国支部	野田幹雄
九州支部	大嶋雄治

第 13 号議案 「令和 2 年度秋季大会運営委託業者」の件

安井北海道支部担当理事から、令和 2 年度秋季大会運営委託業者について原案の説明があった。本議案について、以下の質疑応答があった。

横山理事 「要旨は冊子体で作成するのか。令和元年度の秋季大会ではネットワークのセキュリティー上、要旨の電子化ができなかったが、令和 2 年度はどうか。」

安井理事 「おそらく冊子体である。」

審議の結果、トーヨー企画㈱に大会の運営を委託することを出席理事全員一致で可決した。

第 14 号議案 「令和 2 年度秋季大会募金目論見書」の件

安井北海道支部担当理事より、令和 2 年度秋季大会募金目論見書について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 15 号議案 「令和 3 年度春季大会委員長」の件

舞田関東支部担当理事から、令和 3 年春季大会の大会委員長について原案の

説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

委員長 東海 正（海洋大）

#### 第 16 号議案 「令和 2 年度各種委員会委員長選出」の件

吉崎総務担当理事から、令和 2 年度各種委員会委員長のうち理事会で選出する委員長について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

シンポジウム企画委員会 平松一彦

令和元年度に引き続き令和 2 年度も委員長を務める者

編集委員会 舞田正志

企画広報委員会 山川 卓

国際交流委員会 萩原篤志

水産教育推進委員会 荒川久幸

水産政策委員会 片山知史

#### 第 17 号議案 「令和 2 年度各種委員会委員選出」の件

吉崎総務担当理事から、各種委員会委員選出について原案の説明があった。本議案について以下の質疑応答があった。

岡崎理事「途中で交代は可能か。」

佐藤会長「理事会の議を経て可能である。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第 18 号議案 「令和元年度資格喪失者」の件

吉崎総務担当理事から、令和元年度資格喪失者の案として対象者となる会員氏名リストが示され、2 月末までに滞納会費が支払われることでリストから名前が除かれるという説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第 19 号議案 「共催、協賛、後援の取り扱いの申し合わせ」の件

吉崎総務担当理事から、共催、協賛、後援の取り扱いの申し合わせについて説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

東海理事 「アイソトープ・放射線研究発表会は協賛ではなく、後援ではないか。」

吉崎理事 「確認する。」

舞田理事 「ヒ素シンポジウムは依頼不定期とあるが、定期的に依頼されるシンポジウム、フォーラム、セミナー大会などというルールには当てはまらないのではないか。」

吉崎理事 「削除する。」

審議の結果、原案を一部修正のうえ、出席理事全員一致で可決した。

#### (報告事項)

##### ① 第 6 回理事会以降の職務執行の状況

###### ・会長

佐藤会長から、次の報告があった。

##### 1) 水産学若手の会委員会について

- a) イギリス諸島水産学会派遣の選考を行い，木村 響氏（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科）の派遣が決定した。
  - b) 令和2年度春季大会中に委員会及びナイトポスターセッションを開催する。
  - c) 令和2年度春季大会の学部生参加費無料化の募集を12月2日に告知したところ，10日ほどで30名の定員に達し，現在10名程度がキャンセル待ちである。
- 2) 水産・海洋科学研究連絡協議会について
- a) 12月19日に日本学術会議講堂にて日本学術会議主催公開シンポジウム「わが国の水産養殖の未来像」を開催した。参加者は128名，うち女性10名，本学会員38名であった。
- 3) 「海とさかな」自由研究・作品コンクールについて
- a) 12月9日に表彰式が行われ，日本水産学会会長賞に2名を表彰した。

・庶務関係

吉崎担当理事から，下記の報告がなされた。

- 1) 資格喪失者（会費未納）のうち会費を納入した以下の者を退会へ変更した。  
山下桂司（正会員，平成27年度資格喪失）
- 2) 有期雇用職員の無期労働契約への変換を行った。
- 3) 協賛について  
共催，協賛，後援の取り扱い申し合わせ3)を適用した。

① 第28回海洋工学シンポジウム

共催	日本海洋工学会，日本船舶海洋工学会
協賛	海洋音響学会 他31団体
日程	令和2年3月9日・10日
場所	日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館（東京都千代田区）
希望	協賛
負担金	なし

・企画広報関係

吉崎担当理事から，以下の報告があった。

- 1) 1月7日に委員会を開催し，和文誌に関する議論が行われた。
- 2) 学生へのサービス向上に向けて学生会員への「日本水産学会お知らせメール」の配信について議論が行われた。

・財務関係

東海担当理事 特になし

・編集関係

東海担当理事から，以下の報告があった。

- 1) 1月28日にZoomによる遠隔会議を行った。
- 2) 二重投稿が判明し，今後対応について検討する。なお，本投稿論文は本委員会でrejectと判断されている。
- 3) 次期編集委員の候補者を選出した。
- 4) 論文賞候補の選考を行った。
- 5) 次年度の事業計画において科研費事業についてオープンアクセス論文をど



のように掲載するかについて議論した。

本報告について以下の質疑があった。

吉崎理事 「二重投稿が判明した経緯は何か。」

東海理事 「別の学術雑誌に同じ内容の論文が掲載されるという予告が掲載されていたことによる。タイトル及び著者が酷似していた。」

舞田理事 「投稿規程で二重投稿は禁止するとの記載があるが、ペナルティーに関しての規則等がないので今後検討する。」

吉崎理事 「投稿のときに「二重投稿をしない」という著者が行うチェック項目はあるのか。」

舞田理事 「存在する。」

黒倉理事 「レビューアーが重複する場合は多いのでレビューアーから発覚する可能性がある。自分が取り扱った事例では著者に警告を出したが、「取り下げるつもりだった。」との回答をしてきた。」

東海理事 「二重投稿論文の責任著者は外国人非会員で共著者には会員も含まれていた。」

黒倉理事 「事情聴取はしたのか。」

舞田理事 「事情は聞いていないが、二重投稿論文の責任著者には説明と警告をしている。」

岡崎理事 「次の投稿のときに何らかのペナルティーがあるのか」

東海理事 「それも含めてルール作りを進める。」

#### ・学会賞関係

萩原担当理事から、学会賞の適正な審査を推進するために推薦書類の変更をメール会議にて検討したとの報告があった。

#### ・シンポジウム関係

横山担当理事から、2回のメール会議で令和2年度春季大会で開催が予定されている2件のミニシンポジウムについて審議を行ったと報告があった。

#### ・出版関係

越塩担当理事から、1月8日に開催した委員会について以下の報告があった。

1) e-水産学シリーズの採択済み企画(2件)の刊行スケジュールが決定した。また、e-水産学シリーズの許容ページ数を原則250ページとすることが決定した。

2) 水産学シリーズ韓国語翻訳の契約書と中国語翻訳の委任状について審議した。

3) 水産学シリーズ1~26巻の英文タイトルを各委員で確認して不適切だと思われるものについて後日委員会で確認することとした。

4) 次年度における委員長・副委員長・委員・幹事を決定した。なお、ベルソーブックス担当委員は次年度から設置しない。本報告に対して次の質問があった。

吉崎理事 「委員が1名減るということか。」

越塩理事 「そうである。」

岡崎理事 「ベルソーブックスに関連する協力・議論はないということか。」

越塩理事 「どういう対応をするかは決定していないので確認する。」

#### ・水産技術誌監修関係

日向野担当理事から、1月8日に開催した水産技術誌監修委員会について以下の報告があった。

- 1) 令和元年度の活動報告と令和2年度の事業計画について原案が報告された。
- 2) 水産技術の編集体制に関する意見交換の中で編集補助業務のアウトソーシングの継続が了承された。
- 3) 令和2年度から委員が大幅に交代する。
- 4) Zoom導入についての試行を行った。

・国際交流関係

萩原担当理事から、令和2年度春季大会における協定学会からの会長等の招へいと招待講演を打診してアメリカ水産学会長、イギリス諸島水産学会長、韓国水産科学会長から参加予定の回答を得ているとの報告があった。SDGsセッションへの中国からの参加者等、新型肺炎による参加中止が懸念されるとの報告があった。

・水産教育関係

舞田担当理事 特になし

・水産政策関係

黒倉担当理事から、令和2年度春季大会では3月26日にミニシンポジウム「わが国沿岸漁業の中長期展望（水産改革の議論を踏まえて）」を開催し、同日委員会を開催するとの報告があった。

・漁業・資源管理関係

東海担当理事から、メール審議にて委員の選出を行い、現在、業界からの委員追加を検討しているとの報告があった。

・水産利用関係

岡崎担当理事から、3月26日に令和2年度の委員会が開催され、委員の引継ぎを行う予定であるとの報告があった。

・水産増殖関係

家戸担当理事から、3月26日に水産増殖懇話会講演会が開催されるとともに、第1回委員会が開催されるとの報告があった。

・水圏環境関係

萩原担当理事から、令和2年度春季大会において令和2年度水産環境保全委員会シンポジウム「貧酸素水塊が内湾生態系に及ぼす影響と持続的漁業から見た評価」を3月26日に開催するための準備を進めているとの報告があった。

・男女共同参画関係

岡崎担当理事から、3月29日に令和2年度第1回委員会を開催し、令和2年度秋季大会中にランチョンセミナーを開催する予定であるとの報告があった。

・社会連携関係

安井担当理事から、社会連携を促進するテンプレートを配布し、各支部からの情報収集を進めており、これまでに近畿支部と北海道支部から提出があったとの報告があった。今後、事例について簡潔にまとめ、理事会の議を経てホー

ムページに掲載したいとの報告があった。

・将来計画関係

和田担当理事から、高野（旧姓：馬久地）理事、小椋理事及び事務局の協力のもとアンケート実施し、400名を超える会員から回答があったことが報告され、本件について総会でも結果について報告したいとの意向が示された。

・北海道支部，地域連携関係

安井担当理事から、令和2年度秋季大会開催準備状況について報告があった。

・東北支部，地域連携関係

佐藤会長 特になし

・関東支部，地域連携関係

舞田担当理事 特になし

・中部支部，地域連携関係

横山担当理事から、幹事引継ぎ会を2月に予定しており、次期は東海大学が担当するとの報告があった。

・近畿支部，地域連携関係

家戸担当理事 特になし

・中国・四国支部，地域連携関係

日向野担当理事から、2月3日に幹事の引継ぎが無事終了し、野田会員が支部長に選出され、次期は水産大学校が担当するとの報告があった。

・九州支部，地域連携関係

越塩担当理事から、令和元年12月7日、8日開催した九州支部の支部大会、総会、例会について以下の報告があった。

1) 12月8日に支部例会シンポジウム「南九州のウナギ資源および養殖生産の未来」が開催され、6名の演者による講演があり、学生の参加も多く、盛会であった。

2) 次期幹事校の九州大学の先生方と業務引継ぎの一部を行った。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

吉崎担当理事 特になし

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

黒倉担当理事から、残り1年で活動を終了するので最後に何らかの形で目に見える活動を実施したいとの意向が示された。

・財務検討委員会（特別委員会）

東海担当理事 特になし

②その他確認事項

(1) 学会賞受賞者講演の座長と会場係について

吉崎総務担当理事から、学会賞受賞者講演の座長と会場係について紹介があり、各所に理事及び幹事が配置された。

(2) 引継ぎ事項について

佐藤会長から各理事が担当・実施した内容における引継ぎ事項について各理事がまとめて提出するように再度要請がなされた。

(3) 次回の理事会について

佐藤会長から次回理事会は令和 2 年 3 月 11 日に 13 時より東京海洋大学品川キャンパスで開催するとの説明があった。

以上をもって Web 会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、16 時 19 分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和 2 年 2 月 8 日

公益社団法人 日本水産学会  
議長 会長（代表理事）

監 事

監 事